

目標達成計画

作成日: 平成 28 年 12 月 9 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	49	行事として外出を計画した時は、全員参加を目標に行っている。日常的な散歩や入居者の希望による外出は十分とは言えない。	これまで外出の機会が少なかった入居者の外出を行う。 可能な限り本人の希望に沿った外出(買い物等)の同行支援を行い、気分転換が図れるようにする。	①職員間での業務連携により外出の時間を作る ②外気浴を定着させ、散歩などを通して近隣の方との交流を深める ③福祉車両への車椅子の乗降を全職員が習得する ④北ふれあいセンター・京山公民館の活用を図る ⑤地域の行事情報をリサーチし、外出の機会を作る	12ヶ月
2	35	今年度は天災による各地の被害が大きかった。 他人事とすることなく、いざという時慌てないために、日頃から防災や防犯に意識を向け、訓練の実施や地域との協力体制を築いておく必要がある。	職員一人一人の防災・防犯への意識を高め、非常災害時にあわてず対応できるように日頃からシュミレーション・訓練を行う。	①非常災害時のマニュアルの見直し・整備 ②避難口・消火器の場所・緊急時の連絡体制等をカンファレンス時に確認していくことの継続 ③水害などの災害に備え、1階から2階への避難誘導訓練を継続 ④定期的に備品の整備・備蓄を点検(電池・飲料水・保存食など)を実施する ⑤地域・家族から防災・防犯についてのご意見をいただき反映していく	12ヶ月
3	20 21		外に出ていくことだけでなく、行事や1・2階の交流、ボランティアや地域の方にお越しいただくなどし、グループホーム内で交流が持てる工夫をしていく。	①家族会の際、地域の方や学生ボランティアにも参加してもらうようにする ②ご家族やボランティア団体への協力依頼 ③学生ボランティアに話し相手として来所してもらう	12ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。